

2022 年秋学期語学留学/アデレード大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

週4回、スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの授業があり、教科書を使いながら進行したり先生が独自に作ったパワーポイントの資料を使って授業をしていました。そして毎週金曜日はオーストラリアの文化や習慣を学び、実際に街に出て課外活動のようなことをする授業をしていました。

午前の日と午後の日があり、自分の時間に使える時間がたくさんありよかったです。

授業は合計4時間、途中で20分ほどの休憩がありました。先生ごとに異なりますが、reading, speaking, writing, listening を曜日ごとに分けて学習しました。また授業の初めはアイスブレイクとして、クラスメイトと会話する時間が設けられていました。Term 最後のテストに向けて、単語や listening, reading に取り組み、授業で取り組んだ内容に関連したテストが学期末に出されるという流れでした。

基礎的なことやリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングを曜日に分けてやった

授業の形態はテーブルごとに問題の答えについて考えたり、問題を答えるときもわかった人が答えていく形でした。進め方は、初めの方はウォーミングアップみたいな感じで、英語を使ったアクティビティを行い、その後に曜日ごとに分かれている4技能の学習を行いました。

先生によって違っていた。教科書を使う先生もいればプリントを使用する先生もいた。しかし曜日ごとに4技能が分けられていたためその内容に沿った授業であった。

reading・listening・writing・speaking の4つの授業に分かれていて、各スキルの授業を週一回行っていた。授業が始まると、最初はクラスメイトとの交流を図る為に、ゲームをしたりお題に沿ったディスカッションをした。授業は教科書を使いグループで問題を解いたり、ディスカッションをして意見を出し合い、またペアで reading の練習をした。

週 20 時間、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングを主に、ディスカッションやゲーム感覚で学ぶことが多かった。

毎週4技能をする

Speaking, Listening, Writing, Reading, 選択授業を各週1

週5の授業でした。先生が何か喋り続けるというよりも、クラスメイト同士で話し合ったりする時間が多かったです。教科書もあまり使わなかったです

今回の留学の授業は2学期制でした。はじめの学期の授業では、主にゲーム形式での授業だったのでテキストを開いての座学はあまりありませんでした。また、曜日ごとにリスニングを磨く日、ライティングをする日と分かれています。効率的に学習することができました。次の学期の授業では主に、テキスト中心の授業でした。質問や、答えを比べたり、発表するときには、グループでディスカッションをすることがほとんどでした。先生が私たちに課題やテーマを上げてそれに対して、答えたり、ディスカッションをしたりしました。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

ほとんど日本人でしたが、コロンビアの人や中国人、韓国人、そのほかアジア人は何名かいました。

レベルによってクラスが分けられるため、クラスによって人数が変わりますが、ほとんどのクラスは二十人前後で構成されていました。九割が日本人で、そのほかは中国人やサウジアラビア人、などでした。

クラスの人数はだいたい15人くらいでした。日本人の割合は90%以上でした。留学生の出身国は中国やサウジアラビアの人が多かったと思います。

1クラスは約15人で、クラスメイトの大半は日本人と中国人だった。その他の留学生は、イラン、サウジアラビア、ベトナム、スペインなど。

前半のタームは、約 15 人で留学生が二人いた。中国人とコロンビア人。後半のタームは、約 15 人で全員日本人だった。

12人ほど 私のクラスは10人日本人、2人中国人
クラスによってまちまちでしたが、私のクラスは2タームとも8割くらいは日本人でした。あとは中国や、コロンビア出身の人もいました。
最初の学期のクラスの人数は18人で、そのうちほかの国の留学生は、2人でした。その二人は、中国から来た留学生と、コロンビアから来た留学生でした。2学期の授業のクラスは、14人で、そのうち7人が日本人で、残りのクラスメイトは中国から来た留学生でした。最後の学期のクラスでは、6人は中国から zoom で授業に参加していました。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。
日本の大学で行うオールイングリッシュの授業とはまた違った雰囲気でした。よかったです。
最も日本と違うと思ったのは、発言がしやすい空気であったことです。日々、アイスブレイクの時間で会話を通してクラスメイトと仲を深めていることや、発言をしてもそれをうまく受け取ってくれる先生がいたおかげだと思います。また比較的少人数で授業を受けるため、声の大きさに関係なく発言を聞いてもらえることも大きな要因の一つだと思います。
日本人は日本語を話がちだった
日本の授業と違った点は、先生が当てることがほとんどなく、ほとんど主体的に発表していく形であったこと。
聞くだけの授業ではなく自分の意見を言う場面が多かった。
日本とは違い、明るく意見があれば気軽に発言できる環境だった
ディスカッションが多く、ゲーム感覚で楽しめる授業だった。
話す機会が多い
日本で受ける授業と比べると、インプットよりもアウトプット中心の授業でした。何かを教わるというよりも、話し合ったり発表する機会が多かったので、英語を学ぶというよりも英語を使う練習をたくさんできました。
最初の学期の授業の雰囲気は、とても賑やかで、楽しかったです。授業のはじめや、終わりにゲームをして、優勝できたチームには先生からチョコレートもらえていたので、みんな優勝するために毎回真剣にゲームに参加していました。日本と異なる点は、先生が正解や意見を言うのではなく、学生自身が授業を動かすとても勉強になりました。2学期の授業では、主にテキストの学習でした。でも、一人で学習する時間もありましたが、グループで質問に対して考えることが多くありました。意見などは、タイミングを考えなしで、自由に発言ができる、少人数での授業でやりやすかったです。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。
リスニングの授業で、さまざまなスピードや話し方での聞き取りなどはあまりしなかったのが印象的でした。
自由な雰囲気の中でドラマで見た海外みたいな感じで楽しく授業を受けれた。
正しいプレゼンについての授業が一番印象に残っています。面白く楽しみながら、帰国後も使うことのできる力をつける事ができたのがよかったです。
冠詞
一番印象に残っているものは、世界の伝説についてのトピックです。留学の最後にこのトピックで、プレゼンテーションとレポートを作らなければならず、また私自身もあまり伝説については知らなかったのが、知るいい機会になったと思います。とても印象に残っています。
自分の将来について考えること。家族や国についても考えた。
クラス替えのテストの時に、writing のお題が”今後、政府は宇宙開発によりお金をかけるべきか”だったので、日本にいても宇宙分野について考えたことがなかったのも印象に残った。
遺伝子組み換え食品について
建物
自分が賛成しないものについてディスカッションしたこと
トラブルが起きた時の各国の解決方法や考え方の違い、というテーマについて話し合う機会があり国によってかなり考え方が違ったので印象に残っています。

私が授業で印象に残ったトピックは、2つあります。1つ目は”Best Time to Mary”です。これはテキストの学習ではなかったのですが、リスニングの授業で、様々な国の人に結婚についてのインタビューを聞く授業でした。このトピックを選んだ理由は、世界によって結婚への価値観が全く異なるのだと驚いたからです。2つ目のトピックは、色によって感じ方や捉え方が異なるというトピックです。これを選んだ理由は、他の国でも、色の感じ方は一緒だと感心したからです。赤色であれば、愛や怒り、青色であれば、自然を意味しているのだと、具体的に理解しました。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

授業の進行やスケジュールが共有されているアプリがあったのでそれをみていました。

現地の大学のノートを買って英語学習のモチベーションにしたこと、そのノートを留学中に使い終わるという目標のもとで、授業中わからなかった単語や表現また自分なりに重要だと思ったことを書き留めるようにしていたことです。授業中も授業後も英語だけ使うようにしていました。一番努力したことは、コミュニケーションです。クラスメイトと仲良くなるために毎授業座席を変えて、できるだけたくさんの人とコミュニケーションを取るようになっていました。またわからないことや不安な事があればすぐ先生に話すようにしていました。

クラス内では特に多く発表して、英語を使う機会を増やした

留学生や先生とできるだけ英語でコミュニケーションを取ろうと努力した。また、わからないところが少しでもあったら先生に聞くようにした。

日本人が多かったため、日本語をなるべく使用しないようにしていた。

限られた期間での留学のため、課題が出されたらすぐ終わらし、授業に集中できるように予習と復習できる時間を授業後に必ず設けた。

分からない単語があればその場で調べる

わからないところは都度先生に質問する様にしていた

教室では前の方に座ることを心がけていました。自分の気持ち的にも発言しやすいし、また先生に質問もしやすいと考えていたためです。あとは絶対に先生から投げられた質問には率先して答えるようにしていました。間違えていても、そう考えた理由などを英語で話すので英語の練習になるし、正解したら自分の自信につながりました。

私が授業を受けるにあたって、工夫したことは、先生が言った分からない単語や、テキストやプリントに書かれている知らない単語をすぐに辞書で調べるようにしました。また、調べるときに日本語で調べるのではなく、初めに、英語で調べてか、意味があまり理解できない場合は、日本語で調べるようにしてました。また、努力していたことは、授業日に出されていた課題はその日のうちかその週の終わりに出すように努力していました。さらに、先生やクラスメイトが英語で質問や意見を言っているときには、英語で理解することを慣れるように努力しました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。	通学手段	通学時間
0人		バス	15-30分
3人	中国人、日本人、ドイツ人	バス	45-60分
0人		バス	30-45分
0人		電車	60-75分
0人		バス	30-45分
0人		バス	15-30分
0人		バス	45-60分
0人		電車	15-30分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
コアラのぬいぐるみ、ハンガー、シーツの替えなど	その他全ての日用品
ベッド、クローゼット、机、椅子	シャンプー、リンス、ティッシュ、ジップロック
ベッド、クローゼット、机、椅子、全身鏡、化粧道具入れ	日用品
ベッド、机、椅子、クローゼット	洗面用具
ベッド、机、ハンガー、押し入れ、枕、毛布	風呂の用具、洗面用具、ドライヤー
ベッド、机、クローゼット、鏡、ライト、延長コード	勉強道具、変換プラグ
ベッド・机・ライト・椅子・クローゼット・棚・ハンガー・鏡	コンセント・洗剤・シャンプー
机、ベッドライト、ベッド、クローゼット	シャンプー、コンディショナー、ボディーソープ
ベッド、机、ソファ、電気、クローゼット	ドライヤー
ベッド、エアコン、テレビ、クローゼット等	衣服、洗顔類、洗濯ネット、ヘアアイロン、日本食等
タオル、手洗い用、体洗う用の石鹸	シャンプー、リンス、化粧水やメイク落とし
私のホームステイ先に用意していたものは、必要最低限のものが用意してもらいました。それは、ベッド、学習机、クローゼット、棚がありました。寝れるベッドで、学習できる机で、睡眠時間も、学習時間も十分に取ることができました。	自分で用意したものはあまりありませんでした。でも、部屋に鏡がなかったため、小さめの鏡を現地で買いました。また、コンセントが日本と異なるため、オーストラリアのコンセントを日本から持っていきました。

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。
ホストマザーが基本外食する習慣の人だったので、ご飯を作る習慣があまりなかったこと。夜ご飯は、頑張って作ってくれていたがやはり日本食が良いと感じました。
シャワーの水圧が弱いのでできるだけ短い時間で入らないといけなかったこと。家の人 Hindoo 教の人だったので隣にお祈りの部屋があり、ずっとお経のようなものが流れていた。
シャワーが5分であったこと。電気の使用量は最小にしなければいけないこと。親戚がよく遊びに来る。自分の部屋で水以外の飲み食い持ち込み禁止。
エアコンがついてなかった
オーストラリアはとても乾燥していて、水が少ないため、水を使う量を極力抑えて生活しようと工夫していることに最初はとても驚いた。
食事内容、いただきます等を言わないこと、靴のまま部屋に入ること
シャワーを使用できる時間が15分だったことご飯を食べる時間が早い(おおよそ午後6時には食べ始める)。洗濯機を使うのが週に1回だけなので毎日服を洗濯しないこと
洗濯が週に一回
お風呂を立ったまま入るところ
シャワーの時間制限、洗濯は週1
シャワーが15分以内で、なおかつ水とお湯を混ぜて使うタイプのシャワーだったのでずっとちょうどいい温度のお湯が出るわけではなかった。
私がホームステイを通して日本と違い驚いたことは、オーストラリアの人は家族との時間を大切にしていること、自分のことはすべて自分でやることを心掛けていることです。もちろん、私も日本の家族との時間を大切にしていますが、ホストファミリーほどではなかったため、驚きました。現地では、仕事が終わりに、夕食、夕食後の楽しい時間を毎日、家族で過ごしていました。また、自分の部屋や、お風呂の扉は自分で掃除することがホストファミリーでは普通だったことです。小学生、中学生のホストシスターがいたのですが、その子たちも自分でできることは、私よりこなしていたので、驚き、戸惑いました。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

お互いプライベートの時間を大切に、その家のルールは絶対守る

人を頼ること。私は少しでも困った事があったらどんな些細なことで、すぐ誰かに相談するようにしていました。そのおかげで小さなストレスも溜めずに生活でき、相談すること自体が色々な人とのコミュニケーションになっていました。特にホストファミリーには学校や勉強のことだけでなく自分の個人的な相談もよくしていました。また、部屋に籠らずほとんどの時間をリビングで過ごしました。自分も家族の一員だということをアピールすることで本物の家族のように接してもらう事ができました。

ホストファミリーとのコミュニケーションをよくとる

自分のしたいことを言ったり、食い違いがあったら話し合うことが大事だと思った。

気にしすぎないこと。私は気を使いすぎて、ホストマザーに注意された。

ホームステイの場合は、ホストファミリーと家でのルールについて初めにしっかり確認することが大事。これをしておけば、ホストファミリーとのトラブルも無く快適に過ごせると思う。ご飯で食べれないものがあるなら、遠慮せずにホストファミリーにその旨を伝える。

分からないことがあれば、全て聞く。言語の壁をすごく感じると思うが失敗を恐れずに話す

コロコロとか掃除するための物があつたらいい。

嫌なことははっきりと恐れず伝えたほうが良い

とにかくなんでも話す。困ったことでも楽しかったことでも、英語力の練習になるしコミュニケーションも円滑になりました。どうしても分かり合えないことがあったときは、対話も大事だけど無理して自分を変える必要はないです。

ホストファミリーと楽しく過ごすためには、自分から積極的に話したり行動したりすることです。自分が英語話すことにためらっていても、ホストファミリーは私が上手く英語が話すことができないと理解してくれているので、この日学校で起こったこと、自分の家族のこと、日本のことを話していくと仲良くてできるとおもいます。さらに、日本料理や、自分の得意な料理を作れるとさらに、喜んでくれると思います。また、自分が使わせてもらっているところはしっかりと自分で掃除することをお勧めします。

パソコンは持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	留学先で SIM カードを購入	不可能	
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	はい
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	LAN ケーブルで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	LAN ケーブル/ワイヤレス共に可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
市内のイベント(ほぼ毎日どこかで何かやっていました)	ランドルモールという通りは洋服屋さんやブランドショップ、スーパーマーケット、薬局、ダイソーやユニクロといった馴染みのある店もあるので日常の買い物だけでなく週末もよく利用していました。Glenelg というビーチは中心街からアクセスもいいし、サンセットが見れるほか、フィッシュアンドチップス、ジェラートなども食べられるので学校終わりなどに行ったりして

	ました。
大学の日本語クラブに行き現地の友達がたくさんできた。その人たちとよくご飯に行ったり遊んだりした。日常会話でよく使う単語やオーストラリアのスラングを教えてもらってとても勉強になった。	学校の Hub やランドルモールなど
日本語クラブ、大学のイベント	ジム
サークルやジムやイベントがあった	大学の hub という施設を利用してよくお昼ご飯を食べてた。お店は coles や wool worth などのスーパーをよく利用していた。
大学のボランティアの方と交流するイベントがあったので時間が合う時は参加していた。12 月には南オーストラリア州政府が主催するクリスマスイベントに参加した	ランドルモールによく遊びに行っていた。ここには飲食店や服屋など様々なジャンルのお店があるので買い物はほとんどここでしていた。お昼を食べるときはアデレード大学のキャンパス内にある Hub で友達とご飯を食べる場所として利用していた。
大学主催のプログラムに友達と参加することが多かったです。ボードゲームをしたり、クリスマスイベントに参加したり、この大学生と交流する機会が増えてよかったです。交流中には、留学で大切なこと、英語の上達方法、その留学生の生活しているところ、など様々なことを教えてくださいました。また、シティで開催されたクリスマスイベントなどは、一般の人でも参加できるようなイベントがたくさんありました。そこで、現地の物食べたり、飲んだりできてとても楽しかったです。ほとんどのイベントが無料で参加できる点がすごいと感心しました。	学校内で利用していたところは、カフェテリアというところですよ。ここでは、友達と一緒にご飯を食べたり、課題を一緒に取り組んだらできる自由なスペースです。ここには、お弁当を温めたり、パンを温めることができる機会がたくさんありました。また、勉強を集中して取り組みたかったため、このカフェテリアの下の階にある勉強できるスペースで毎日勉強しました。静かなところで集中でき、勉強がはかどりました。そして、よく友達と行っていたお店は、ランドルモールストリートというお店がたくさんあるところで、カフェしたり、買い物したりしました。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
単語
単語学習、シャドーイング、留学経験のある人の話を聞く
現地の文化について調べる
英語の勉強や、使える英語のフレーズを少し勉強した。
TOEFL を受験。合わせて TOEIC の勉強と洋画を見たり洋楽を聴く時間を増やした。
英会話教室の授業を受けていた。そこでオーストラリアのスラングなどを事前に勉強した。
意識して英語の本などを読んだり、TED トークを寝る前に聞いたりしていました。
私が留学前に取り組んだ準備は、プレゼンテーション力を少しでも向上させることです。春学期に、プレゼンテーションの授業を履修して、英語で発表することに慣れることについて取り組みました。具体的に、原稿を見ず、自分の言葉で分かりやすく説明することを重点的にしました。また、時間に余裕があるときには、文法、リスニングの勉強をコツコツと取り組みました。私は、ホームステイを希望していたので、英語を聞き取る取るためにリスニングに重視して、留学前準備に取り組めました。

留学前にしておけばよかったと思う準備
単語、スピーキングとリスニング
単語学習をもっとしておけばよかった
もっと事前に留学先の地域について調べておけばよかった。
イディオムをたくさん覚えていれば、会話をする際にも簡単に短文でも伝わると思う。会話が途切れることが少なくなると思う。

語彙力
リアクションのレパートリーを増やすこと
基本的な英文法の復習。自分の自信に繋がって、もっと積極的に話せたらいいなと思う。
私がこの留学を通してやってあげればよかったことは、料理と英語の勉強です。理由は、私はそこまで料理が得意ではありません。だから、一緒に料理をすることがあまりありませんでした。今では、日本料理が作れれば、教えてあげたいと思っています。そして、英語の勉強ですが、いざ、現地に行くと勉強したはずの単語文法が出で来なかったときがありました。そのため、単語の暗記や、長文などの英語の勉強をもっとやってあげればよかったと後悔しています。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの
緑茶の粉
爪切り 折りたたみ傘 目薬 帽子
喜ばれたもの.日本の絶景パズル、日本のお菓子/役に立ったもの,洗濯ネット
日本でしか買えないお菓子や製品。外国の人は日本のイメージとして抹茶が強いのので、抹茶に関するものを持っていけば喜んでくれると思う。
常備薬 多めに持っていくべき
おかし
日本食(特にお菓子)、化粧品(現地で買うと3倍ほどの値段)、セミフォーマルな服、水着
あさげ(フリーズドライ味噌汁)、ほんだし(粉末だし顆粒)どうしても日本の味が恋しい時にかなり心の支えになります
私が日本から持って行ってよかったものは、日本のお土産としてのお〜いお茶の葉です。お土産を渡したときは、日本らしくていいねと喜んでくれました。そして、日本から持って行って役に立ったものは、白紙のノートと、ルーゼリーフです。授業で、ノート以外に書くときに、大きめのノートを持って行っていたので、とても便利でした。書きやすく、見やすく板書ができたと思います。

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
シャンプーとかの消耗品、日用品	特になし
薄い服 思ったよりも寒かった	分厚い服
日本食味噌汁や米など大体のものはアジアンショップで購入可	厚手の服(例年に比べ気温がとても低かったため。)
特になし	スリッパを持っていけばよかった、水筒
服の上に羽織るもの	ドライヤー
ヘアドライヤー・洗剤・日本食(大量に持っていく必要はないと思う)	髪ゴム・くし・日本製の薬・ムヒ
洗濯ネット、日本食(量を少なめにすべき)	長袖の服
サトウのごはん	冬服
おしゃれな服(スウェットで過ごすことが多かった)	薬(現地で体調を崩し、オーストラリアの薬が効かず、日本人の友達にもらった日本の薬を飲むとすぐに治った)
大量のマスク個人差はありますが、オーストラリアはそんなにマスクをつける習慣がないので、気になる人は持って行ってもいいとは思いますが、大量には要らないと思います。現地でもダイソーなりで日本で買えるやつと同じものが買えるので。	日本の写真
私のホースステイ先の人は、ドライヤーを貸してくれて、自分が持っていたドライヤーは一度も使う時がありませんでした。	私が留学に行った時期は、本当はオーストラリアは暖かく、夏の気候なのですが、気候変動のせいで、とても寒かったです。そのため、長袖のパーカーやダウンジャケットが必要だと思い、持参すればよかったです。夏

	服も十分に必要ですが、冬服を何枚か持っていくといいかもしれません。そして、マイ箸を持っていくと便利かも知れません。私は、韓国のホストファミリーだったのですが、友達が英語圏の方で家に箸がないって言うので、箸も持っていくといいかもしれません。
--	---

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
クレジットカードを2枚用意していたものの、留学前日に日本で全て紛失し最初の1ヶ月は現金で過ごしました。	自由に使えるお金を30万円くらい
現金・クレジットカード	現金4万円/クレジットカード
クレジット	40万
割り勘したときに現金を少し用意した。それ以外のものを支払うためにクレジットカードを作った。	クレジットカード上限20万円、現金3万円。
クレジットカード	カード上限をあげて、現金は4万ほど
クレジットカード3枚と現金	クレジットカード上限10万円×3枚、現金4万円
現金とクレジットカード	現金四万円、クレカ二枚(二枚合わせて、上限50万)
現金4万円分、クレジットカード二枚	現金4万、クレジットカード上限30万
現金、クレジットカード	現金10万円、クレジットカード20万円程度
私は、お金は現金とクレジットカード、マスターカードを準備しました。現金は、友達とご飯食べに行ったときに、割り勘するときに必要になります。また、電子マネーが利用できないお店もあったため、現金を持っていくといいかも知れません。オーストラリアは、現金とカードの支払い、どちらでも可能なので両方持っていくと安心だと思います。	現金は、日本円で10万円。マスターカードには、20万円。ですがお土産や、食べ物などの費用などで足りなくなったため、追加で10万円使いました。

現地で支払った住居費と食費を教えてください。
住居費払っていない。食費は5~10万円くらい
食費約5万円
住居費は通信料の2万くらいを払った。食費は4万円くらい払った。
1か月5万円
約10万
ホームステイだったので住居費はかかりませんでした。食費も基本的にホストファミリーが用意してくれていたのがあまり負担はありませんでしたが、時々友達と外食をするときがあってその時はアデレードは基本的に少し物価が高めなので一回の外食につき20ドルくらいはかかっていました。
私が今回の留学で使った食費は、おおよそ30万円です。

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。
2万円くらい
通学費は乗り放題のバスカードを2回買って1万円
通学費/1万6千円ほど

テキスト代は現地では払ってないです。通学費は25000円くらい払った。
1 か月 5 千円
通学費は約 1 万5千円
テキスト代はすでに留学費用に含まれていた 通学費は月に約 6000 円
通学費は28日で55ドル
3 万円程度
通学費は1週間 15ドルくらいでした
交通費は、2か月半で約4000円

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。
服や日用品で 5~10 万円ぐらい
旅行費別で10万円ほど
15 万
旅行で10万くらいと、日用品で2万円くらい払いました。
1 か月 5 万円
買い物や旅行で1ヶ月に 7 万ほど
旅行計約10 万 買い物計約20万
月 7. 5万くらい。足りない物を買ったり、お土産を買ったり。
15 万円程度
80 日合計にすると、日本円で 40 万円くらいは使いました。
個人的費用は約20万くらいです。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析
コミュニケーション能力と表情やジェスチャーで表現する能力がつけました
初日は Thank you などの簡単な英語しか言えなかったが、最後の方はゆっくりだが自分が言いたいことを文で言えるようになった。リスニング能力が一番伸びたと思う。
語学力は普通の授業によって向上する事ができた。授業中に学習した単語は実際に普通の生活で使うことも多く、ご学力の向上を最も感じる事ができた。コミュニケーション能力は日常生活の中で身につける事ができた。さまざまな人と交流する機会が多く、多様性を学ぶ事ができたことが力の向上につながったのだと思う。
主にスピーキングとリスニングが成長した
語学力はリーディング能力以外はかなり向上したと思う。コミュニケーション能力に関しても、ホストファミリーや学校で教えてもらって向上できたと思う。
英語力は上がったと思います。特にリスニングです。
積極的に自分から英語を使って話せるようになったと思う。
アウトプットする機会が多かったのも、スピーキング力がとてもあがった。何事も自分で解決しようとするようになった
ある程度の受け答えはできるようになった。知らない人、あまり話したことのない人とたわいもない会話をできるようになった。
語学力 コミュニケーション能力は留学前に比べて大きく向上した様に感じる。やはり日本で生活するより英語を話す機会は断然に増えたからだ。日本

では必ずしも英語を使わなければいけない場面は数ないが、外国にいつしまえばほとんど使わなければいけない状況が良いところである。

英語力というよりも、英語で積極的にコミュニケーションをとる、積極性が身についたと思います留学に行く前は、ある程度は話せたのかもしれないけど、英語で話した経験が少なく自信がありませんでした。ですがこの留学を通じて英語で過ごしたことで、英語力に自信が付き結果的に話すことも積極的になれました。

留学をする前と今では英語の語学力とは上達したと思います。理由は、授業が終わろうとしているときの先生やホストファミリーが言っていることをすぐに理解することができました。さらに、その先生やホストファミリーが私に問いかけた時に、それに対する答えをすぐに伝えられるようになりました。また、コミュニケーション能力は完ぺきではないけれど、留学行く前に比べて伸びたと感じました。理由は、家族や友達と、いろいろなことを自分から話せるようになったからです。まだまだ、伸びると思うので、さらに伸ばしていきたいです。

留学前の目標とその達成度

コミュニケーション能力と表情やジェスチャーで表現する能力がつかえました

目標はたくさんの人と交流することで90%達成することができたと思う。クラスやホームステイだけでなく、店の店員さんにお勧めを聞いたり、街のイベントに参加したり、地域の人ともたくさん交流する事ができた。

日常会話に困らないレベル、いつもと同じルーティーンまたは特別なことがない限りあまり困らなくなった

留学前はリスニング能力とスピーキング能力を向上させたいと思い、留学に行ったが、その2つが向上していると私自身思うので目標は達成できたと思う。

英語力の目標で言ったら4分の1です。もっと上がるよう自分で何か工夫するべきだったと反省している。しかし、夢を見つけることができた。

留学前の目標は英語力を伸ばし自信を持って英語が話せるようにすることだが、達成度は6割ほど。英語力は伸びた実感はあるが、まだ自信を持って話すのには少し不安がある。

留学前は、友達をたくさん作って有意義な時間を過ごすというのが目標だった。実際、行ってたくさん友達ができた。それに加え、英語力が断然上がった。

コミュニケーション能力をつけること。初対面の人とでもしっかりと話せるようになった。

異文化理解力を身につける→70% 現地の人たちは私たちと違った考えやスタイルを持っていた。カルチャーショックを度々受けたが、それらを受け入れようと努力した。

目標で、自分でオーストラリアに行くこと決めたからには、現地で英語力を高められる機会は絶対に無駄にしないと決めていました。実際に授業でも積極的に発言したり。自発的に質問などもできたので達成度は90%くらいです。

私は、留学前と帰国後では、目標は完全に達成することはできなかったけれど、英語を聞き取る、話すことは、達成することができたと思います。英語や学習面での達成度は感じられたけど、生活面の達成度はあまり達成できませんでした。

留学を通しての成長ポイント

性格が少し明るくなったと思います

英語を話さないと通じないという環境は大変だけどとてもいい経験になった。現地特有の言い方などがわかるからとてもいい。

語学力やコミュニケーション能力以外に、自信や自分を表現する力がついた。ホストファミリーの間違えても恥ずかしくないという教えと日々たくさん褒めてくれたことで自分に自信がついた。自分がどうしたいかははっきり発言する国民性に影響されて自分の意見を持つようになった。

他人とのコミュニケーション能力が伸びた気がする

私自身の留学生活を通しての成長ポイントは柔軟に物事を考えられるようになったことです。

積極的に人とコミュニケーションをとる力は身についたと実感している。また、自分のかたい考えも少し柔らかくなったと思う。

リスニング力が特に身についたと思う。毎日ホストファミリーと英語で会話する環境からこの力が身についたと思う。

さらにポジティブになった。何事も自分から行動するようになった

英語に関しては話す勇気が出た。それ以外に関しては自分が悩んでいたことの小ささを実感した。
英語を話すことに対するの抵抗力が留学前に比べてほとんど無くなった。
積極性、何事も受動的に与えられたタスクや機会を使うだけでは得られるものはあまり多くないと気づきました。なので自分から話したり自分から動いたりする積極性が身についたと思います
私が留学を通して、成長できたポイントは、英語を話すことはもちろん、もっと留学生と話したい、外国人と話したいと思うような気持ちが前よりも高まりました。また、留学前は自分のことはなかなか自分でやる気持ちにはならなかったけれど、ホームステイを通して、自分のことはしっかり自分でやるべきなのだと感じました。そのため、お弁当や、自分の部屋の掃除などは引き続き自分でやろうという気持ちになりました。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

ずっとモチベーションは高いですが留学後はこれからもっと頑張ろうと思いました。
最初は本当に不安で英語を聞き取ることも難しかったが帰る頃にはもっと喋りたいと思った。もっと単語を覚えてすらすら言えるようになりたい。
留学前は英語学習を義務的に感じてしまっていたが、留学後はホストファミリーや新しい友達とのコミュニケーションのために進んで学習するようになった。
留学前は上手くできるか不安だった、留学の前半はやる気に満ち溢れていたが後半では少し下がった、帰国後は現状を少し向上させる程度で満足かなといった具合
留学前は語学学習に対するモチベーションはそこまで高くなかったが、周りの留学生たちをみて、自分自身の語学の向上のモチベーションにつながった。留学後も現地で学んだ語学を活かそうと思うことでモチベーションを保っていると思う。
確実に上がった。今の英語力では足りないことを再認識した。
留学前は留学についていけるか不安が大きかったが、留学中は英語漬けの毎日に慣れ留学生活も楽しくなり、留学後の今は留学が自分にとってとても価値ある経験になったと思う。
留学中が一番語学学習に対するモチベーションが上がった。このままの語学力を維持できるように学習を続けていきたい
日常会話をできるようになろう/帰国がモチベーションになった/留学行かないとできないことを経験したことがモチベーションになった
留学前 低 留学中 高 留学後 中
留学前はなんとなく英語が話せるようになりたいな～というボヤッとした目標だったのが、留学に行って、実際に英語を使って意見交換をしたり生活したりすることで、ツールとしての英語ということを強く意識しました。英語は学問としてもそうですが、元々はツールであり言語なので、英語を学んだ先には他の国の人と話すことができるというモチベーションの向上につながりました。
留学前は、英語の勉強をやろうというモチベーションがあまりなかったのですが、留学中の授業や勉強の取り組みを通して、コツコツでもいいし、英語の勉強を自分自身で頑張ろうという気持ちに変化しました。留学前は、英語の勉強はどのようにすればいいのかわからずに勉強していたのですが、留学中に先生や、友達に勉強のやり方を教えてもらったため、日本帰っても頑張ろうと思いました。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

最後のテストとプレゼンテーション
旅行の時にホテルを間違えて一ヶ月後に予約してしまっていてそのキャンセルと新しいホテルを予約する時。
毎日 100%力を振り絞って生活していました。しかし、店員さんとのコミュニケーションはホストファミリーや学校の人たちとは違って、自分が留学生であることを知らないし優しく聞いてくれるばかりでもないため、自分の力を確認できる機会、その都度100パーセントの力を振り絞っていました。
現地の知らない人に話しかけられて話している時
グループプレゼンにはかなり力を入れました。
期末テストの時に行うプレゼンテーションでの発表時
一番最後のプレゼンテーション

プレゼンテーションをコロンビアの人とやったとき
体調が悪くなり、英語で自分の症状、したいことしたくないことを伝えた時
携帯が壊れた時に Apple Store に自分一人で修理を申し込んだ時です。どうにかしないといけない、という焦りもあり、今まで一番必死に自分の意志を強く英語で伝えた瞬間でした。
私が留学中に100%力を振り絞ったことは、初めの学期の授業でのプレゼンテーションです。初めての留学に、初めてのクラスメイト、さらに外国の先生だったので、本当に緊張しました。ですが、この時、今まで積み重ねてきた学習を振り絞りました。とても緊張して、分かりやすく伝えられるか不安でしたが、結果が自分が思っている以上によかったので嬉しかったです。

留学先大学の良かった点
大学側が現地の大学生と関わられるように様々なイベントを用意してくれた点です。
大学が主催するイベントや政府が主催するイベントに参加する機会を与えてくれた。中心街から大学が近いため交通手段が良く移動しやすい
アデレード大学でよかった点は、先生が全員優しいし、質問がしやすく、様々なことを気軽に相談できることができました。不安や、嫌なことがなく、学校生活を送ることができました。また、学習時間やスペースが多く取れたため、自分で勉強するモチベーションにつながりました。さらに、いろいろなクラスタの交流があってとても楽しかったです。先生の気遣いや、優しさが本当に良かったです。また、金曜日のオーストラリアの文化を学習する授業があり、さらにオーストラリアのことについて知りたいと思うようになりました。
月～木曜は技能ごとに分かれた勉強で、偏りなく勉強できたこと。金曜日は選択授業でカルチャーについて学べたこと。
学校が家から近い、周りになんでもある
施設が整っていた点
大学が主催するイベントも多く、学外の時間も充実させることができました。先生もかなりフレンドリーな方が多かったので安心して質問したり発言したりできました
アデレードがとても都会すぎず田舎すぎず海や山もあり、優しい人が沢山でとてもいい場所だった。
定期的に数人で行う相談会があった点
授業が面白い、施設が綺麗、話を聞いてくれる人がいつもいること、
周りの人と距離が近く、人もフレンドリーで過ごしやすい気候だった